

2021年7月31日 長崎大学公開講座18「遺伝について楽しく学ぼう」

毎年夏休みに開催している、学習プログラム「遺伝について楽しく学ぼう」は今年で18回目となりました。昨年はコロナウイルスの影響で実施できなかったため2年ぶりの実施となりました。子ども15名、保護者10名にご参加頂きました。今年もコロナ禍ということで感染対策を行いながら、一緒に楽しんで学ぶことができました。

まず、PTUの味を確かめました。おそろおそろ、PTUのついた細長い紙を舐める様子がありました。「にがーい！」と顔をしかめる子どももいれば、「え、なにか味するの？」と舐め続ける子もいました。そして、味がする人、しない人の数の違いについてみんなで作成しました。グラフを見て、気が付いたことを発表してもらい、グラフではわからない大人と子供の違いについても参加者みんなで作成しました。

博士から、昔はこの苦みを感じる特徴が生きていくことに有利に働いて大切なものだったけれども、今ではもう有利でも不利でもなくてあまり役に立たない特徴であること、このように遠い昔の特徴を祖先から伝えられていることを教えてもらいました。



特徴探しでは、2人の先生を見比べながら同じところ、違うところを探して発表しました。緊張している様子もありましたが、「手や足は2本ずつあると思います」「髪の色が違います」「目が2つあることが同じです」など、たくさん発表してくれました。そのあとに、みんなが発表してくれたものを見ながら、“変わる特徴”と“変わらない特徴”にみんなで作成しました。特徴には、一生変わらない『遺伝的特徴』と周りの『環境』に影響を受けて変わるもの、その両方に当てはまる特徴があるということを確認しました。



次に私達のいろんな特徴を観察しました。親子や、きょうだいで顔を見合わせながらであったり、ルーペや鏡を使ったりして、自分の特徴シートをつくりました。親子でも同じ特徴や違う特徴があったりして、楽しく自分の特徴を調べることができました。そして、みんなで見つけた特徴を使って、遺伝の木を作成しました。完成した遺伝の木をみて、「葉っぱがない枝はない」、「右側に多く葉っぱがある」など、このクラスの特徴を見つけました。

みんなで作った遺伝の木を通して、同じ特徴をもっている人もいれば違う人もいて、様々な特徴の組み合わせがあるから、全ての枝に葉が付き、素敵な木ができることを学びました。

遺伝の木で作った自分の特徴シートを使って特徴ゲームをしました。最初は全員が立って、ゲームスタートです。発表をしてくれる人の特徴を1つずつ発表してもらい、その特徴と違う人は座っていくというゲームです。1つ1つ特徴を発表していくと、最後は発表者1人になりました。



3人のお友達が発表してくれましたが、全員が座るまでに発表してくれた特徴の数は違い、最後はみんなで盛り上がりながらゲームに参加してくれました。このゲームを通して、1つの特徴をみると同じ特徴を持っている人はたくさんいるけれども、たくさんの特徴をみていくと、同じ特徴の組み合わせを持つ人は誰もいないこと、人間は1人1人違うことを学びました。

最後に、博士と一緒に今日の学習のおさらいをしました。今日学んだこと、博士のお話を真剣に聞いて、たくさんメモをとっている様子もみられました。参加して一緒に学んでくれたみなさんに終了証をお渡しし、今回の遺伝の木の前で写真撮影をしました。

今回はコロナ禍での実施ということもあり、家族毎のテーブルでの作業としました。子どもたちや保護者の方同士が近くでお話をし合いながら学ぶことはできませんでしたが、ご家族一緒に笑顔で学んでくれたり、手を挙げて発表してくれたりして、私たちも一緒に楽しく学習することができました。また、作業毎と手指消毒にも協力して頂き、安全に実施することができました。参加してくれたみなさん、ありがとうございました。



文責：遺伝看護・遺伝カウンセリングコース1年 下村愉宇子、平間理子